破壊力学と確率過程による短繊維補強コンクリートの力学モデル研究委員会【B 種・新規】

(1) 活動期間

令和 6 年 4 月～令和 8 年 3 月

(2) 活動経過

令和 6 年 4 月 1 日　第 1 回委員会　活動計画の共有と実験計画に関する議論
令和 6 年 5 月 28 日　第 2 回委員会　実験計画に関する議論とレビュー論文の作成
令和 6 年 8 月 22 日　第 3 回委員会　レビュー論文の作成および力学モデルの議論
令和 6 年 12 月 27 日　第 4 回委員会　レビュー論文の修正および力学モデルの議論

(3) 活動成果・活動報告

令和 6 年度は，セメントマトリクスに埋め込まれた短繊維の引抜挙動について，確率過程と破壊力学を用いたモデル化を試みている国内外の文献を調査し，レビュー論文として取りまとめることができた[a)]。また，単繊維をモルタルに埋め込んだ試験体による引抜クリープ予備試験を行い，繊維が完全に引き抜けるまでの時間に著しいばらつきがあることを確認した。

a) Kanazawa, T., Hashimoto, K., Park, K. and Takahashi, H., Statistical Perspective to Time-dependent Pull-out Behavior of Discrete Fibers: A Review. Journal of Advanced Concrete Technology, 23(2), pp.99-115, 2025.

(4) 委員会の構成

委員長	金澤　健	北海学園大学
幹　事	橋本　勝文	北海道大学大学院
委　員	高橋　駿人	東北大学
〃	松本　高志	北海道大学大学院